

平成19年度 川内北中校区 ふれあい市民会議 答 弁 要 旨

と き 平成19年11月16日（金）14：00～16：30

ところ 中央公民館

出席者 市：市長

総務部長，企画政策部長，市民福祉部長，農林水産部長，商工観光部長，建設部長，教育部長，水道局長，危機管理監，市政広報官，コミュニティ課長，広報室長，

広報室長代理兼広聴広報グループ長，広聴広報グループ員

市議：杉園道朗議員，寺脇幸一議員，森永靖子議員

福元光一議員，江畑芳幸議員

地域：川内北中校区各地区コミュニティ協議会長をはじめとする
地区住民163名

議題1 （亀山地区コミュニティ協議会）

京泊・大小路線のバイパスについて

現在，五代公園の手前まで歩道が拡幅されているが，それから先は人家が多く，また敷地も狭くバックが困難であり，買収及び移転に多額の費用が見込まれる。そこで，京泊・大小路線の北側，五代公園付近から新川石油五代SS付近まで，人家の少ないところにバイパスを考えて欲しい。

～ 効 果 ～

1. 買収費用等が少なく，工事も早い
2. 五代郵便局前の変形交差点の事故も解消
3. 羽田地区の交通も便利

【建設部長】

現在県道44号京泊大小路線においては，湯島町平島地区においてバイパス工事が実施されているところである。

当該県道44号京泊大小路線と川内川対岸の県道43号川内串木野線については，臨海部の緊急輸送道路及び地域の産業振興のため，また，原子力発電施設周辺の道路整備として県に対し要望しているところである。

当該五代地区のバイパスについては、現在県においては計画はないところであり、また、厳しい財政状況もあり徹底した事業の絞り込みも行われている状況から、新規の事業化は現在整備中の区間の状況を見て判断したいとのことで、まずは、整備中の区間の早期完成を図るとの考えである。

厳しい状況であるが、要望の区間についての整備の必要性については交通安全上も認識しており、今後も県に対し、整備要望を行っていききたい。

議題2 (亀山地区コミュニティ協議会)

高城川堤防立ち木について

高城川堤防立ち木について、防災会議質疑の中でも検討されましたが、今年はたまたま、洪水は出ず心配することはなかったが以前高城川が決壊した時の事を考えた時、あれだけの雨量が今はない。しかしいつの日か降る事も想定しなくてはならない為、立ち木の撤去をお願いしたい。

【建設部長】

高城川は県管理の一級河川で、堤防の伐採要望は合併以前からも地域防災会議や平成17年度川内北中校区ふれあい市民会議で要望があり、県へ取り次いでいる箇所である。

本年も、8月23日開会された河川改修対策調査特別委員会において、委員から洪水時に流れを阻害する懸念のある立竹木等の伐採要望がなされ、10月16日県北薩地域振興局に要望を行ったところである。

県としては、限られた河川維持費の中、防災的に危険性の高い箇所から優先して寄洲除去や伐採作業を実施しており、高城川の当該区間については、河川改修を終えた区間であることから、他河川との調整を図りながら実施していくとのことである。

また、県は、地域住民等による県管理河川等の清掃美化活動等を促進するため「みんなの水辺サポート推進事業」でボランティア活動を支援しているところである。その支援内容として、

1. 団体名を示したサインボードの設置
2. 軍手、混合油等清掃作業用品の支給
3. 活動中の事故に備えた傷害保険の加入

があり、本市にも認定された4団体があり活動されているところであり、当該地域の皆様方のご協力もお願いしたいと考えている。

本市としては、立竹木の状況等を把握しながら、防災的な面から優先度を考慮され、年次的な伐採が実施されるよう、今後も引き続き、県に対し、要望を行っていききたい。

議題3 (亀山地区コミュニティ協議会)

市道永田・軍原線道路拡幅工事

市道永田・軍原線は①別府，若宮住人の一般通路②平，羽田，久留巢等の児童・生徒の通学路③農業用の運搬通路として利用しているところです。本道路の出入り口は道幅が約2mと非常に狭く，車での出入りがしにくい状況です。全線ほぼ同じ状態で，人・自転車と軽自動車さえ離合することが出来ない状況であります。今後，若宮地区の緊急災害に対応するためにも道路の拡幅が喫緊の課題となっております。

つきましては，早急にご検討いただきますよう，宜しくお願い申し上げます。なお，企業を除いた地権者の内諾はほぼ全員得ております。

【建設部長】

本件につきましては，事前に沿線地権者の同意が添えられ要望がなされております。長年にわたり，拡幅要望の声が上がっておりましたが，一部境界問題等により実施に至っておりません。

亀山地域における若宮と下五代を結ぶ幹線として，利用度の高い道路となることは予想されますが，建物補償等課題も多い路線であり，慎重に調査検討したいと考えております。

また，実施となりますと，総論賛成でも買収面積や補償等，個別の問題になり色々な意見要望等があり，一つ一つ解決する必要性が生じてまいります。

地権者の全面的な協力がなければ事業は成り立たないことをご理解ください。

当地域では，現在，御陵下・下五代線を整備中であり，まずは，そちらを優先して完成させたいと考えております。

質 疑

議題1京泊・大小路線のバイパスについて，県にも計画はないとのことだったが，去年，240～300mくらい道路が広がっている。なぜですか。

【建設部長】

現在広がっているところについては，通学児童が多いということで，交通安全対策上，歩道を整備するという計画で，本当はもう少し長かったが，交渉していく段階でなかなか厳しい面がありまして，あのような状況で，右折レーンを造ってある付近までが，整備の区間ということでございます。ただあれから西側については，計画自体はございません。先ほど申しましたが，現在のところ湯島の平島の方を実施しておりますので，

県も財政が苦しいということで、今やっているところを終わってからでないとならぬと次の事業に入っていくということ、そういう状況も見ながら県の方へ要望していきたいと思っております。

質 疑

議題3について、実際に、調査や地権者の対応等、また、全線開通させるのか、一部拡幅するのか。市としては、いつ頃から始めていただけるのか。目処を立てていただけるかどうかをお聞きしたい。

【建設部長】

市道の整備をやっておりますが、その考え方につきましては、各地域に道路の優先順位をつけていただいて、その順位に沿って道路の整備をしていく。私どもも、財政的に厳しいものですから、要望も多数いただいておりますが、なかなか全てができないという、また先ほども述べましたが、今やっているところを早く終わらせることが第一だということで、いつ行うとは、言えませんが、それを終わらせなければ次に入っていく。

たとえば、道路を造るとなると測量をしなければならない。測量をして、どこがどれだけつぶれますというようなことをして、それで、用地の測量とか工事の測量とかいろんな測量をしていくわけですけれども、そういう細かい測量に入る段階というのは、もう実施の段階、われわれは、そういう捉えかたをしておりますので、従いまして、先ほど申しましたように、現在の道路が終わらなければ、具体的な作業に入っていく。ただ、地域の方々の同意書を添えていただいておりますので、それにつきましては、どういう物件があるかという調査は、市の職員もできますので、それは、行っていきたいと考えています。

【市長】

今、質問されたことについては、私も十分理解はいたしております。おっしゃったとおり、上川内と軍原線の前に出るところの入口のところは、一回じゃ難しいんじゃないかと思っております。市道はもうだいたい2 m 7 5 c m以上最低そうになっている。車が通れないですね。車が通るには最低3 m近くないといけない。将来的には、改良していかなければならないと思っているんですけど、ここに手をつけるまでには、すこし時間がかかるとこのように申し上げておきたいと思っております。地権者の皆さまのこの一葉のある垣根のあるところの家の方を相談した方が、家まで直すと予算もかかりますので、垣根のある方について、ご協力がいただけるようであれば、少しずつでも、やっていかなければ

ならない。あと、4mくらいあるところは、ずっとありますので、田んぼをやりますので、そちらの方はもうある程度改良されておりますので、要は、入口のところについて、相手があることですから、いつまでにとすることはございませんが、調査とかそういうことについては、できるだけ具体的な話が上がって参りましたら、調査費をつけてやっていこうと思っております。

質 疑

五代の郵便局の交差点のところは、下五代・小倉から子どもたちが通学し来ており、年に2～3回事故があるので、あそこに信号機または横断歩道でもつけないと危ない。どこに言えばいいのかわからないが、よろしくお願いします。

【建設部長】

交通安全の関係ですので、県の公安委員会、警察の交通課の関係になります。要望ということで、承りまして、警察の方にお伝えしたいと思います。

議題4 (可愛地区コミュニティ協議会)

排水溝に蓋をして歩道として活用できないか。

上川内駅南側踏切から、御陵下運動会館横の市営グラウンド前交差点へ通じる道路沿いを、朝の通学・通勤時間帯を見ると、隣接する排水溝（幅1.3m、深さ1.1m以上）のガードレールと信号待ちの車両を縫うように、小・中学生の子どもたちが通学している様子が見受けられる。

近年は、後牟田・国分寺・本城自治会方面からの交通量も増え、いつ交通事故が発生してもおかしくない状況下であると思われる。そこで、事故を未然に防ぐ手立てとして、排水溝にコンクリートの蓋をして、安心・安全な歩道として活用できないか検討していただきたい。

【建設部長】

市道御陵下瀬ノ岡線のこの区間は、幅員は8.5mありますので、歩行者と車両の通行を区分したいということで、まず最初に中央線・路側線等区画線の設置を行いたいと思います。

この区画線の表示を行ったあと、通行状況を見ながら蓋版設置について検討したいと考えています。

議題5 (可愛地区コミュニティ協議会)

後牟田川の川面の上に建築されている国道3号線に面した家屋の処置について

後牟田川の川面に建築されている国道3号線に面した家屋が、洪水時において、上流から流失される木片や雑草、諸雑物のため堰状態になり、通行に支障をきたす恐れがある。今後の改善と処置をお願いしたい。

【建設部長】

ご指摘の家屋が市の管理する準用河川後牟田川にまたがって建っている状態でありませぬ。

この経緯について調べたところ、昭和40年代前半に国道3号の拡幅工事があり、この時の工事で家屋の移転する場所が無く、また、本人の意思が固く、今の場所からの移転を拒まれたということで、川をまたぐ方法で家屋を移動させて現在の状況に至っております。

ご指摘のとおり河川の維持管理上、好ましくない状況であります。現在は、人は住んでおりませぬので、家屋の所有者等に河川上に跨る部分の撤去についてお願いして参りたいと思ひます。

また、併せまして、市でも出水期には、重点的にパトロールを行います。

議題6 (可愛地区コミュニティ協議会)

6月10日、河川愛護作業を行って気付いた事

私たち、国府自治会として、銀杏木川、九礼橋等の環境の中で日々暮らしてひます。平成18年の架け替え工事の際、川に降りていくための階段を施工していただきました。子どもたちが川で遊ぶには便利になり、ありがたく思ひてひます。

階段の降り口にはガードレール(支柱)にロープ2本で立ち入り禁止のようにしてあります。しかし、簡単に進入できるような状態です。増水時など川に落ちるなどの惨事が起きる前に、フェンス(可動式のもの)を設置し、危険な状態にあるときは進入できないようにしていただきたい。

【建設部長】

銀杏木川に架かる九礼橋は、銀杏木川河川改修工事に伴ひ、平成18年県により架け替え工事が終了したところでありませぬ。

また銀杏木川は、国による浄化事業により水質改善が図られ、子どもたちをはじめ市民が川で遊ぶ姿が見られるようになり、親水性も高くなつてきてひます。

河川の階段は、本来、既設の復元あるいは住民の方の要望で設置するほか、河川の維持管理や消防水利を行う時に役立つことや、地域住民が利用することを目的としていますが、現在は、歩行者等危険防止のためロープを張っている状況であります。

県としては、階段に隣接し通学路があることや、設置目的等を勘案して、増水時に子どもたちが立ち入らないよう注意看板を今年度設置したいということでした。

本市としては、親水性を保ち、自然に親しんでほしいと考える反面、河川は大雨時には増水して大変危険な状態になってきますので、安全確保のために、フェンスなどの設置について県に要望していきたいと考えています。

質 疑 (要望)

議題4について、歩道ができないのであれば、センターラインまた、歩道と車道との区分のラインをつけてほしいと思っていたので、ありがとうございます。あそこの交差点は交通事故が非常に多いところでありますので、学童が巻き込まれないように、できるだけ早くお願いしたいと思います。

質 疑

本城踏切の拡幅については、今年の4月に改良が終わると聞いていたので、質問していませんでしたが、その辺はどうなっていますか。今後の見通しについてお聞きしたい。

【建設部長】

本城踏切の拡幅については、肥薩おれんじ鉄道とも協議いたしておりまして、工事は私どもが直接できませんので、鉄道側の方をお願いするというので、予算措置をしてその委託の契約を結びつつあるところです。早い時期に実施されると考えております。したがって、今年度にそういう協定を結んでやっておりますが、向こうの工事の都合で、期間的にいつまでにとというのは、明確にできませんということですが、実施するようにしていますので、よろしくお願いたします。

【市長】

今日午前中県庁で、おれんじ鉄道の経営問題について、出水・阿久根市長、おれんじ鉄道の社長等と一緒に協議をしましたが、おれんじ鉄道の経営はうまく行っていません。なかなか電車に乗ってもらえないということで、毎年、赤字が出ています。最初は10年間は赤字はでない(償却前)ということでした。新幹線開通と同時に営業をしていま

すので、初年度は、9千万ぐらい黒字が出る予定（償却前）でしたが、9百万くらいしかでない、17年度は5千4百万くらい赤字が出ています。そして18年度は1億7千万の赤字が出ています。これでは、いかんということで、今日は知恵を絞っていこうということで、話をしたわけです。おれんじ鉄道としても一生懸命やっておられますが、今の踏切の問題については、契約を締結すれば、私どもの予算の執行は来年3月31日まででございますので、それまでの間にやっていただけると確信をしております。私の方からも念を押しておきます。みなさんも年に1回阿久根まででもよいので、乗っていただくと少しは元気が出てくるのではないかと思います。話が横道にそれましたが、来年3月までにはしっかりと市の契約が済んだら改良してほしいと要請しておきますので、よろしくお願いいたします。

質 疑

御陵下瀬ノ岡線の関係で、側溝に落ちてしまい、すでに3人救急車で運ばれたり、怪我をされているので、このことについては、強く要望をしたい。

【市長】

今、御陵下運動公園の方から、側溝の蓋をかぶせてきているので、それを済ませたら、ここもできるだけ蓋がかぶせられるか、転落しないような安全策のしっかりしたのをやっていきたい。それまでの間は中央線、歩道を表示してまいりたいと思っています。

議題7 （育英地区コミュニティ協議会）

山田島排水ポンプ施設・瀬口排水ポンプ施設の排水ポンプ増設又は能力アップについて

昨年7月の鹿児島県北部豪雨の際、中郷川・瀬口川は現在の排水ポンプ能力不足（毎分70 m³）のため内水排除が間に合わず地域一帯が氾濫し、床上浸水、国道267号線他市道が冠水し交通不能になり総合運動公園へ避難しようにも行くことが出来ず、消防団の援助に頼らざるを得ない事態も発生しました。

市ご当局の見解は、排水ポンプ車・臨時ポンプの設置で対応する意向でございますが、大規模面積の運動公園が開発された現在、降雨時下流の中郷上池・下池の貯水量を超えた水は中郷川に流れ、その流量増加速度は異常なまでに加速されています。このような状況の中で、排水ポンプや臨時ポンプの設置を待っていたのでは間にあいません。是非ポンプの増設又は能力アップの対応をお願い致します。

【建設部長】

昨年の7月の県北部豪雨時には、国道や排水ポンプ周辺の市道等が冠水し付近の住民の方々には大変ご心配をおかけいたしました。

ご要望の件につきましては、排水ポンプ車・臨時ポンプの設置で対応することとしておりますが、昨年の状況を踏まえ中郷川の排水ポンプ増設についても検討してまいりたいと思います。

**議題8 (育英地区コミュニティ協議会)
城の橋上流左岸の土砂崩壊防止対策について**

城の橋付け根の修復につきましては昨年度事業で実施されましたが、その上流部左岸約50mにわたり、降雨時河川側壁の崩壊のおそれのある部分が存在します。現在、台風や降雨時に少しずつではありますが、土砂崩壊が発生し、竹・立木が川に入り込み、その都度消防団や地元住民で除去している現状にあります。

万一大きな降雨となり、土砂崩壊が発生すれば土砂や竹・木は中郷川を流下し、山田島水門をふさいでしまいます。当該排水ポンプが不能になった場合、中郷地区の大半が浸水する危険性があり、早急な対応をお願い致します。

【建設部長】

ご要望の自然護岸の区間については、重点的にパトロールを行い、崩壊等が起きた場合は、早急な処置が出来るようにしたいと考えています。

なお、護岸等の整備については、災害復旧工事での対応を考えておりますので、現時点では手をつけられない状況であります。よろしく願いいたします。

また、今回、川の方に倒れている竹や立木の伐採・取り除きを業者に指示いたしまして現在作業を行っております。なお、竹や立木が川に入り込み消防団や地元の方で取り除かれているとでございます。誠にありがとうございます。地元での作業が困難な場合は、市の方に連絡いただければ、すぐに市の方で対応したいと考えております。

**議題9 (育英地区コミュニティ協議会)
くるくるバスの路線延長運行について**

現在くるくるバスは東回り・西回り、合わせて1日26便が運行されており、市民の足として大きな役割を果たしています。しかし、コースが歴史資料館から総合運動

公園に向かい、中郷地区を通らないコースとなっています。

育英地区は平成12年に土地区画整理事業が完了して以降毎年人口が増加しています、また高齢化率は14.5%と低い地域ではありますが、地区内には65歳以上の高齢者は約650名程おられます。足の不自由な高齢者にとっては、くるくるバスの存在はどんなにありがたいことでしょう。また、当地区には近隣市町村からわざわざ診療を受診に見えられる病院もあり、当地区のみならず、他地区の住民の皆さんにも便宜がはかれるものと思います。

運行にはいろいろと制約があることと思いますが、中郷山田島の諏訪元商店まで入って戴ければと思います。毎回の運行でなくとも、何本かに1本の運行でもかまいませんのでご検討お願い致します。

【商工観光部長】

くるくるバスをご要望のとおり路線延長しますと、1便あたりの運行時間が長くなるため、現行の便数を維持するためには、運転手の増員が必要となり経費増となりますので、困難と考えています。また、一部の便のみ路線延長することにつきましても、新たな路線として、国の認可が必要となりますし、また新たな経費増にもつながりますので、同様に困難と考えております。

ただし、12月1日から、新たに100円均一の北部循環バス2コースの運行を予定しています。その内、城上吉川循環線につきましては、川内駅から育英地区を通りまして、東郷・八幡・高城方面へ回って川内駅へと循環するもので、西回り、東回り合わせて6便を運行いたしますので、こちらの方をご利用いただければと思います。

また、これに加え、育英地区は、路線バスが1日上下合わせて40便運行されておりますので、バス路線はある程度整備されている地区と考えています。

質 疑

議題7について、昨年7月の災害のとき、ポンプ要請をしてから実際に排水されるまで、約6時間かかった。川内市内のポンプ排水場は48あるのに対して、国土交通省の所管するポンプ車が1台、それから1分間に8㎡のポンプが3台しかなく、臨時ポンプで対応するとなると、いつも中郷川に全部配置していただけるという保障はない。許容量を超える水が流れ込んできて、山田島では一気に水位が上昇する。ポンプ機能の向上・増設をなんとかお願いしたい。

【市長】

昨年のナナフミ災害でもし堤防が切れていけば、市街地も大惨事になったろうと思っています。実情は私も、よくわかっています。

一昨日、国土交通省の河川局で意見を述べる機会があったので、中郷地区の区画整理が終わったところのタイゴ（小川）について、ポンプの必要性についてお話し上げたところでございます。

それにしましても、今年の雨量はさつま町の紫尾地域で1200mmくらい、吉川で700mmくらい、城上では三百数十ミリ降ったが、それがこちらに来なかったのが不幸中の幸いでしたが、上流の雨がダムを超えて一斉に入ってきたので、入ってきたものをそのまま流さないとダム自体が耐えられなかっただろう。だいたい4000tくらい入ってきて、3700tくらい放流し、その下の、穴川や樋渡川などの水が途中で入ってきて、4000t以上の水が流れたらと思うています。

昭和47年7月に湯田の温泉街が流されました。120世帯くらい流れ、あの時も大変な雨量だったわけですが、その時はまだ、久住橋は流れなかった。今度は、久住橋の欄干を越えてきて、橋が流失してしまったわけです。したがって、それ以前想定していた100年に1回の大雨にも対応するという想定が、最近の異常気象によって崩れてきて、地域によって局地的に豪雨が発生するというわけですから、中郷地域については、最初の頃、中郷の前畑のところに毎秒10tの下水道事業関係の土地排水事業のポンプがある。あるいは、中郷の上の方は菌畑からあちらの水を集中的に処理するようになっています。上の方は、設備を造るときは、田や区画整理の途中でまだ家が建っていなかったが、その後見違えるように、今まで湧水地帯で、田んぼが30cmくらい浸かったりしていたところが、全部埋まってしまって、住宅街になっています。その想定が、私どももまずかったのではないかと、どの雨が降っても100年に1回の大雨が降っても大丈夫だというような対策でポンプを設置しておけばよかった。みんなの土地がかさ上げをされて、住宅ができてきましたので、毎分70tのポンプ能力では間に合わなくなったというのが、ご指摘の状況です。そこで今、中郷の堤防について引き堤が行われています。内側にあった堤防の土砂を持ってきて、川幅が広がるわけですが、引き堤によりまして、あの周辺の流下能力が前よりも増えていくことは間違いありません。川幅が広がるので、流下能力が増えることにより川内川の水位が下がるだろうと思っています。常設のポンプを付けられたらいいですが、今すぐに付けることは不可能ですが、下の方に向かって広がっていくので、外水が上がらなくなるだろう。外水が上がるために水門を閉めます。そのために内水が溜まり、それをポンプで汲み出すというわけですので、外水が下がれば、内水も中郷川も自然に流れていくだろうと思っています。ただ、昨年のような雨が降ると去年みたいなことになりますので、中郷については、臨時ポンプでも、雨季になりましたら、準備しておかなければならないだろう。既設のポンプでは足りないというのは証明されているので、来年に向かって、昨年程度の雨が降った場合も、なんとか床上浸水にはならないようにしとかなければいけない。また、ポンプの必要性については、今後なかなか一気にはできませんので、それよりも、中郷も下の方も、排水川を増やしていければ、ある程度水も引けるのではないかと、今年の山田島地区の状況に鑑みまして、対応していきたいと考えています。

質 疑

育英小の前が高くなっていて、山田島の方に水が溜まるので、そこを削り下げただけでないか。

また、中郷詰所にいた消防団員である職員が、高江の責任者として行くことになったが、それはおかしいのではないか。

【市長】

育英小の方は、管を入れて誘導しないといけないと思っています。

【危機監理監】

基本的には地元の職員を配置するようにしているが、場合によっては、隣の詰所に行くことがあります。今後は、必ず地元の職員を配置するよう固定していきたい。

質 疑

先ほどから予算がないとのことだったが、市に入ってくるお金を1円でも増やすにはどうすればよいか、市から出て行くお金を1円でも安くするにはどうすればよいかそれが、一番大事。肥薩おれんじ鉄道は、10年間は赤字はでないだろうとことだったが、当初から経営不安なっており、18年度は1億7千万の赤字、10年20年続けていけばどうなるのか、どの程度まで赤字が増えたら決断としてやめるのか、教えていただきたい。

【市長】

収入の面を増やす方法を考えないといけないということで、歳入の考え方も、将来を展望しながら取り組んでいます。しかしながら、収入には限りがありますので、支出の方を抑制していかざるをえない。都会は景気がよく地方公共団体に入ってくる収入が多いので、東京都知事は23区の住民の皆様方に、中学を卒業するまでは、医療費はただにしますと言っておられる。本市は今までは3歳児未満も三千円を控除してあとは、公費で負担していたが、やっと今年の4月から、3歳児以下は医療費は無料にするというのができた。支出を抑えていかなければ、収入の方は期待できないのが現状です。そこで、おれんじ鉄道につきましても、今年是一般の定期などを利用されている学生や通勤者の利用は下がってきているが、観光などで利用していただく方は少し増えてきているので、1億4千5百万の赤字ということで、新幹線の乗り継ぎやパック旅行などで、18年度よりは少し収入が伸びるのではないかという報告を頂いた。これから出てくる赤字をどうして埋めていくか。もう電車を走らせないようにし

ようかという意見もある。とりあえず、赤字が出た場合、熊本県と鹿児島県で1対1で案分をする。その中でも、各県ごとに赤字の計算をし、それを案分していく。鹿児島県の利用客が少し少ないので、赤字が増えており、約8千万くらいになります。熊本は6千万くらいということになる。その8千万をどうして穴埋めするかというと、私どもはおれんじ鉄道ができるときに6千2百万くらい負担をしているわけですが、鹿児島市からいちき串木野市までの市町が、3億7千5百万負担してくれた分を基金として積み立ててある。その分を8千万くらいずつ赤字が出ていけば4年間はおもてるだろうと。それが、平成23年ですので、19年度に出た赤字を23年までは、持ちこたえられるが、そこで、基金を使い果たしますので、あとをどうするかが問題。だから、この問題については、もう1回見直していくべきだという話し合いが今日もあった。

ところが、志布志線や宮之城線など廃線になったところは支線ですが、こちらは本線で、今もJR貨物が1日5往復、奄美大島やいろいろなところから来た荷物を鹿児島の中央ターミナルに集める。それからこちらの方は全部川内駅に荷物を集めて、この2つの駅から北海道や東京まで送っている。したがって、これをなくすると、熊本まで自動車・トラックで運ばなければならない。ところが、地球温暖化でCO₂の問題が出て参りましたので、できるだけ電気を使って、あまり環境が汚染されないようにしていくには、電車かなにかを使った方がいいのではないかと、実際、トラックをどれだけ使えば、貨物列車の役目を果たすか計算をしている。ご質問の件は、この問題も含めて考えていかなければならない。おっしゃるとおり、いつまでも市町村が赤字を負担していくわけにはいかないので、いつかの時点で、決着をつけなければならない。そのために、JR九州は新幹線で儲けつつある。国は国鉄からJR九州や東海などに何十億というお金をつけて払い下げた。ところが、今度、肥薩おれんじ鉄道を作るときは、鉄道の線路やその敷地は固定資産として無償譲渡して、お金は一銭もやらなかった。だから、運転資金というのが最初からなかった。市町村が出したお金の中から、資本金の他に運転資金を使ってやっているの、なかなかうまくいかない。肥薩おれんじ鉄道を最初は84人でやっていくと計算していたが、実際は今92人いる。予定よりも支出（人件費）が多くなっているの、なお、収入は少ないのに支出が多いということになっているので、その辺りをどういうふうに解決していくかということで、国に対してもなんとか地方の住民の足も確保しなければならない、産業経済の面でもローカル線が果たす役割について、国としてもバックアップしていかなければならないということで、援助をしてくれということをお願いしている。

おれんじ鉄道はここまでにし、今、合併当時1,366名いた職員が1,285名になっています。節減をし、1,000名近くまでなんとか絞っていかなければならない。議員も44名いるが、来年の10月は選挙があるが、法律では34名になる。なるべく人件費を抑え、その分を市民の皆様のいろんな要望に少しでも応えて参りたいと考えておりますので、ご理解頂きたいと思っております。

質 疑

九電にもっと危機管理感を持っていただきたい。目に見えない放射性物質を濡れたタオルで拭いて除去したから、良かったというような簡単なことでよいのか、そういうことも踏まえて建設等考えていただきたい。

もう一点、霧の都川内と言われていますが、川内川がきたない。水洗便所から直接川に流さず、もう一つくらいマスを作ってほしい。

【市長】

九州電力に対する危機管理感をもう少し持って勤務していただきたいというご意見ですが、おっしゃるとおり、また、先日新聞にも出ましたとおり、原子炉の中で、使用済み核燃料貯蔵施設の増強工事中、転落し宙吊りになった際、少し放射性物質を浴びられたのではないかとということで、消防車や救急車を呼んで、除染の手当てをして、それから正式に済生会病院の除染施設の方に運んだわけですが、そこら辺りを専門的に、もう少ししっかりと報告をしていただかなければならないと市の方からも苦情を出したところであります。最初は異常なかったという報告だけでしたが、説明用語は少し難しくなるかもしれませんが、九州電力としては、ちゃんと発表に当たっては、順の分かるように、そして納得いくような説明をして欲しいということをお私の方からも要請文書を出しておきました。

それから、川内川が汚れているということですが、水質汚濁防止法に基づいて基準値内には保たれていますが、残念ながらまだ、下水道につきましては、宮里から川内駅までの160ヘクタールについて、事業が終わりまして、今それぞれ各家庭・工場・商店・会社から繋いでもらう作業をしているところであります。今引き続き、川内駅東側の区画整理をしておりますが、そこに約11ヘクタールぐらいございますので、そこについても下水道事業の整備をして参ります。その次をどうするかということですが、川北の亀山もありますし、中郷・育英の方もあつし、御陵下もあつし。しかしながら、この下水道事業は相当お金がかかりますし、また、民有地をいろいろ協力をいただき、管を入れていかなければならない。したがつて、いつになるか分かりませんから、市民の皆様方にとりあえず、下水道区域として決定している区域については別として、あとは合併処理浄化槽をそれぞれ各家庭に設置をしていただきたい。ところが、大小路の国道3号線周辺については、そういう敷地も無いから下水道を通していかなければならないですが、育英とか亀山などは合併処理浄化槽を造っていただきましたら、4～6人槽で90万くらいかかるのではないだろうか。国・県・市がそれぞれ3分の1を助成しますので、個人の負担はあまり大きな額ではないと思つしますので、設置していただきたいということをお願いをして、その事業を展開していくことになつます。だいたい年間400～450基市内で設置をしていただいておりますが、これをしますと生活排水もでて参りませんし、し尿の関係も生活排水も全部浄化されまして、下水道と同じように

きれいな水が側溝に流れていきます。それがないところは、自分の家庭の側溝の前のところに溜めマスでも造っていただければ、残菜が残ったりしているが、できるだけ合併処理浄化槽を造っていただきたいというPRを進めてきております。そして、下水道も区域になりましたところについては、管につないでいただくようお願いを申し上げているところであります。環境の問題でありますので、小川も川内川も一層きれいになるように市民の皆様に周知徹底を図ってご協力を願うようにしていきたいと思っております。ありがとうございました。